

容姿の違いや文化の違いに対して子どもたちから疑問が出た時にどう向き合っていますか？

違いを伝えるために保育内容に

どんな工夫をしていますか？

子どもたちに伝えるためには

まず自身の知識が大切。

どんな学びを意識していますか？

多文化も大切。

でも日本の文化も同じように大切。

保育の中で日本の文化の伝承にはどんな事がありますか？

などなど、外国にルーツを持つ子ども・保護者の方を受け入れている保育士さんと情報交換をしました。

その一部をご紹介します



外国にルーツを持つ子ども・保護者を受け入れて保護者から要望

- 豚を食べさせないで欲しい
- 肌を見せてはいけないという考えがあり着替えを別室で行う
- 「いただきます」の挨拶の際、手を合わささないで欲しい
- 排泄（男児）の際、座ってさせて欲しい など

こんなものがありました

こういった要望に対し、どのような方法があるかと保育の考えると同時に、「なぜ“いただきます”の時に手を合わせるのだろうか？」と日本の文化について改めて考え、今行っている当たり前の習慣は今まで大切に伝承されてきたものなんだと改めて感じる機会となりました。



“違いを認め合う保育”について考える

～Vol. 1～

地域の子育て支援研究会



遊びの中に様々な違いについて子どもたちが気付いたり、触れたり、知りたいという探究心を育むための環境作りはどんなものがあるのでしょうか？

- オリンピックの話題が出た時に選手の国について子どもたちと話す
- 積み木のコーナーに世界遺産の写真を貼る
- 国旗のカルタや地図図鑑などを使う。



季節ごとの行事には日本の文化の伝承を取り入れ

やすいのではと思います。家庭によって大切にされているものが

違い、昔話や日本の行事を知らずに育つ子もいるのでは？との話になりました。

それぞれの季節に、子どもにまつわるもの・人や物に感謝を伝える（願う）ものなどが

あり、子どもたちに伝えていきたいと思いました。



普段の遊びにコマや将棋・あやとりやお手玉など昔からの遊びに触れ楽しんでいます。運動会などの行事では戸板上りや荒馬などにも触れている施設もあります。

しかし新型コロナウイルスの影響で木や竹の玩具から消毒を行いやすいプラスチック製のものになってきている施設もあります。

時代に合わせて変えていくものと、大切に伝承していくものとを改めて見つめ直すきっかけにしたいと思いました。

